

LCA データベース勉強会の概要

1. 現状と課題

近年、カーボンフットプリントや欧州委員会の環境フットプリント、Scope3 スタANDARD など、製品の LCA や組織のバリューチェーンにおける環境負荷の定量化の取組が国際的に進んでおり、さらに環境フットプリントでは算定結果の「比較可能性」を主張している。環境負荷の算定にあたっては、算定に用いるデータベース（以下、DB という。）の整備が必要不可欠であるが、DB において次の課題がある。

- ① DB が国内及び海外に多数存在し、使用する DB によって算定結果が異なる状況。
- ② 国内の DB 開発において、国際的に幅広く利用されるための課題（海外 DB との差異、データ品質評価など）が未整理。
- ③ DB 利用者にとって、バックデータを知ることなく各 DB を利用しなければならず、自社製品の評価に対して適切な選択・利用となっていない可能性。

2. 調査・分析事項

以上の背景や課題に対し、主要な国内外 DB について、以下の調査・分析を行う。

<調査対象 DB>

IDEA、ecoinvent、ELCD、GaBi、韓国およびタイの DB、農作物系の DB※

（1）データの作成方法等の調査

各 DB について、データ作成方法、データ構造、バウンダリ、対象となっているプロセスの種類、基本フロー、データフォーマット等をまとめる。

※農作物系の DB は上記（1）の調査のみを想定

（2）DB 間の算出結果の比較と分析

主要な金属、樹脂等の重要な環境影響領域指標について、DB ごとに算出し、数値の比較を行い、DB によって大きな乖離がある素材について、差の要因となる単位プロセスを分析する。また、差の要因となる単位プロセスについて、各 DB におけるプロセス作成方法を分析する（単位プロセスの範囲が異なる場合は、複数の単位プロセスを対象とする）。

（3）製品 LCA プログラムのケーススタディによる DB 間比較／算定ルール間比較分析

ユーザー企業の協力の下、複数の DB を用いて特定の同一製品に対する LCA ケーススタディを実施し、結果の差異を分析する。併せて、既存の製品 LCA プログラムにおける複数の

算定ルールを用いて、特定の同一製品に対する LCA ケーススタディを実施し、結果の差異を分析する。対象とする算定ルールは、各国のカーボンフットプリント制度、TypeⅢ環境ラベル制度などの算定ルール（基本ルール及び製品ごとの PCR）とする。

＜対象制度候補＞

カーボンフットプリント制度：日本、イギリス、韓国、タイ

TypeⅢ環境宣言：日本、スウェーデン、韓国

カーボン以外のフットプリント制度：フランス、欧州委員会環境フットプリント

（４）品質評価の実施

各 DB のプロセスデータに対して、環境フットプリントの評価基準を基にデータ品質の評価を実施し、評価結果を分析する。分析結果を基に、日本のデータベースの評価を高める方策を検討する。

３．開催スケジュール（予定）

回数	開催時期	検討内容
第１回	2013 年 8 月上旬	・ 勉強会趣旨説明 ・ 調査対象の DB と製品 LCA プログラムの確認 ・ 対象製品の決定 ・ 主要データベース概要の整理（検討事項（１）） ・ DB 間の算出結果の比較と分析（検討事項（２））
第２回	2013 年 10 月中旬	・ DB 間の算出結果の比較と分析（検討事項（２）） ・ ケーススタディ分析（検討事項（３）DB 間比較）
第３回	2014 年 1 月中旬	・ ケーススタディ分析（検討事項（３）算定ルール間比較） ・ 品質評価の分析（検討事項（４））